

連載

夢を叶える
大月仕事人



今月の interviewer
大月短期大学
(左から) 小みやまみそら 込山美空さん
こぼやし ゆう 小林 優さん
たかむらとうこ 高村 桐子さん
かのう るる 狩野 流瑠さん

ネガティブをポジティブに変換

“夢を叶える大月仕事人”の連載第19回目は、鳥沢にあるパン屋さん「bakery bocco」の店長である日向純子さんに、大月短期大学生がインタビューしました。

【地域の何気ない存在へ】

1.bakery boccoにてお話を伺いました。 2.お店に並んでいるパンを見させていただきました。あんぱんやスコーンがありました。 3.パンの他にアクセサリも販売されていました。

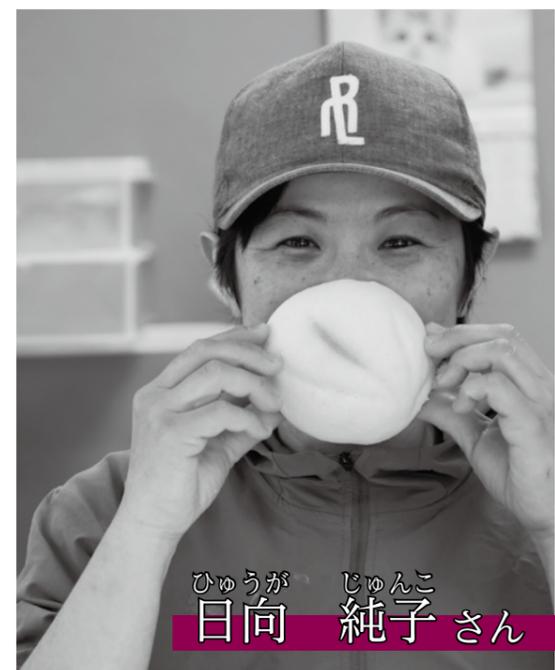
「買いに来てくれたお客さんたちの「楽しかった時、あの店のパンをよく食べていたな」とか、

「今後の夢は何ですか。」

「この年になっても伸び代だけだなと思います。20年以上やっています。まだまだだなというところばかりで、全体を底上げしないといけないと思います。お客さんが来てくださるたびに現状のままではいけないとすぐく思うのですが、具体的にどうしていくかはまだ迷っているところ。自分で経営することとで今まで見えなかったものが見えるようになったという面では、成長することができたのかもしれないです。」

「パン屋さんを営んでいて成長したと思うことはありますか？」

「大月で働き始めて良かったことは何ですか？」
「私の母が鳥沢の出身で、お店がある土地は叔父が所有しています。叔父から土地を借りて、家を建てるタイミングで自分でパン屋をやってみようと思いました。」



ひょうが 日向 純子さん

～プロフィール～
富浜町鳥沢在住のパン職人。東京都中野区出身。専門学校を卒業後、八王子のパン屋で修行を始める。パン職人歴は28年目。好きなパンはフランスパンやバゲット。

「近所の方やお客さんがとにかく優しいことです。笹子や上野原から来てくれるお客さんもいらっしゃるのですが、大月市周辺の方々は良い人ばかりです。また、午前中で売り切れることもあるのですが、皆さんが「昨日は早かったね」と言ってくれて、見守られている感じがあります。」

「大月市には東京へのアクセスの良さ」と「活かせる自然」がたくさんあるという良いところがあると思います。近年は登山やキャンプなどのアウトドアがブームになってきているので、この層をキャッチできれば、市内のお店も立ち寄ってもらえる機会が増えると思います。この辺りだと百蔵山や扇山、高畑山、倉岳山がありますが、登山のお供にうちのパンを買って行ってくれる方が増えたらうれしいです。」

「あの人とよくこのパンを食べていたな」という存在になれたらいいですね。皆さんの何気ない日常の片隅にいられば良いなと思います。」

「私たち若者へのメッセージをお願いします。」

「ネガティブをポジティブに変換する練習をしてみてください。」

「自分自身に起こったことをポジティブに変換していけば、人から相談された時もポジティブに返してあげられるようになります。相手も考え方が変わって、ほっとすると思います。そして良い関係も生まれれます。なるべくポジティブに変えていけばつらいことも減るかなと思います。」



ネガティブをポジティブに変換

日向さんは、東京から大月に移住し、パン屋さんをオープンするという決断をしましたが、一方で大きな不安を抱えていたそうです。そんな日々の中でも日向さんは自分には伸び代がまだまだあることに気付いたとおっしゃっていました。このように日向さんはネガティブをポジティブに変換することを心掛けていると言います。こうした心掛けが現在の活躍につながっているのだと感じられました。挑戦を続ける日向さんの今後のご活躍に期待しています。

